

教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

報 告 書

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プログラム名   | 道徳科全面実施を支援する研修プログラムの開発<br>～「かがわ道徳ラボ」を核として～                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| プログラムの特徴 | <p>各学校において、道徳の教科化に関する共通理解や完全実施に向けた準備が十分に整っているとは言い難い現状であり、それは学校における道徳教育に関する校内研修の機会の少なさや中教審答申、学習指導要領等の理解不足が大きいと考えられる。道徳の教科化を目前に、学校現場の道徳科全面実施に対する様々な不安や疑問を課題として捉えた。具体的には、次の5点を解決すべき課題として研修プログラムの内容に位置付けた。</p> <p>道徳科実施の趣旨や経緯への理解不足<br/>道徳科におけるめざす授業像に対する曖昧さ<br/>道徳科の評価に対する不安や疑問<br/>教科書になり、年間指導計画や別葉等作成に対する不安や疑問<br/>学校全体で推進する授業の指導体制や推進体制づくりに対する悩み</p> <p>このような課題を捉えて、全面実施までに学校の教員は、行政は、大学の教員養成は具体的に何をすべきなのかを研修において学びながら、その解決に応えたり支援したりする研修プログラムを展開してきた。</p> <p>特に、教職大学院、県教育委員会、県教育センター、その他道徳教育に関わる複数の機関や立場の違う人によって行われる連携・協働となる道徳教育研修の場を創設しようとした。また、その連携や協働によって得られた成果も道徳ラボの一部である。</p> <p>さらに、本研修プログラムに参加できなくても、校内研修や個人研修等で活用できる「かがわ道徳ラボ Q&amp;A」にまとめて、各学校等へ提供する。また、教科化に伴う不安や悩み等に答えるために、電話やメール、FAX、来訪等による対応を行う「道徳教育何でも相談ネット」を実施してきた。</p> |

平成30年 3月

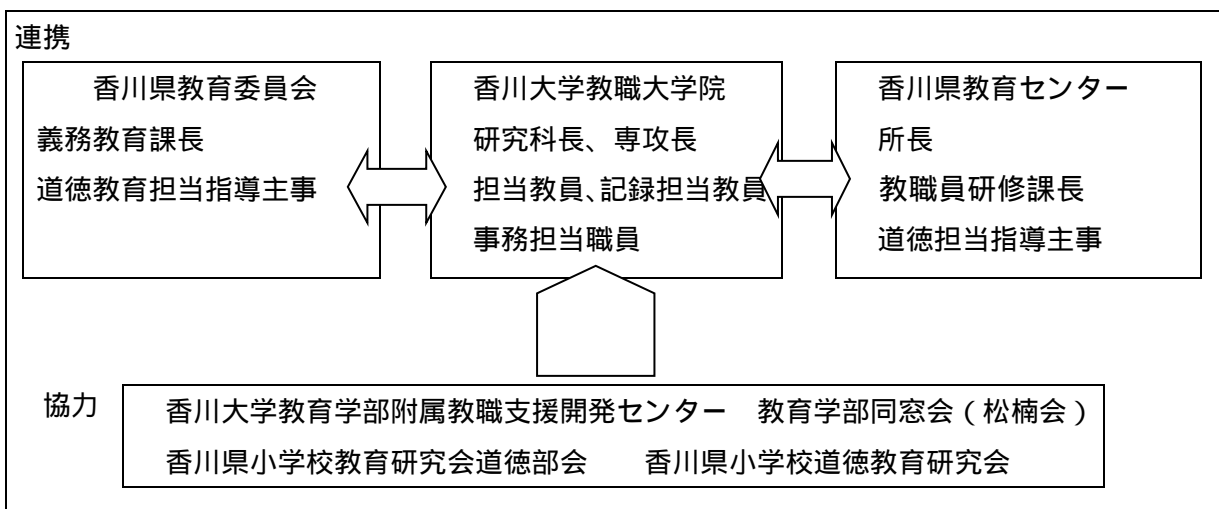
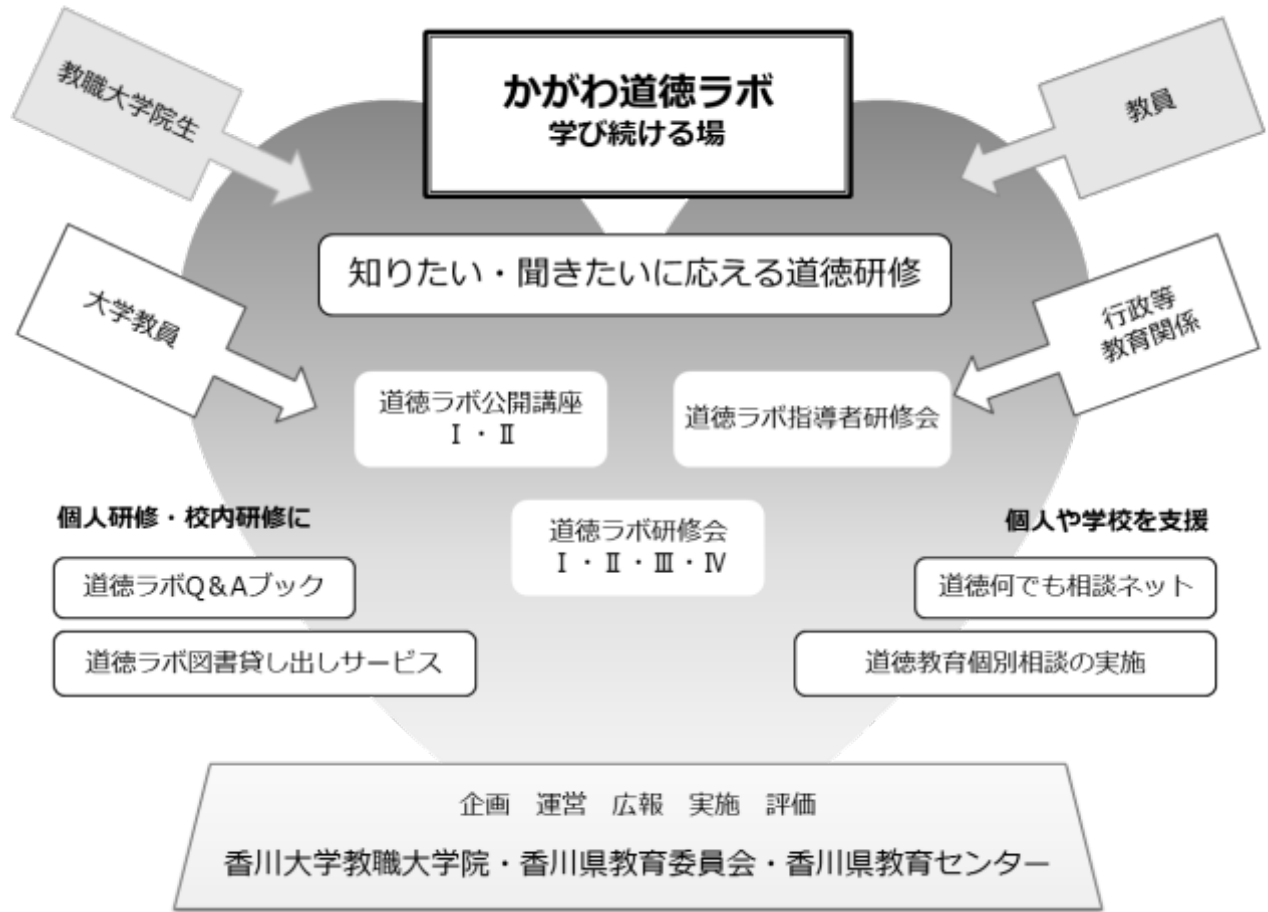
機関名

連携先

香川大学教職大学院

香川県教育委員会・香川県教育センター

# プログラムの全体概要



## 開発の目的・方法・組織

### 1. 開発目的

平成 28 年 4 月に開設した本学教職大学院で、道德教育を柱とする特色あるカリキュラムを編成している。現在、各学校において、道德の教科化に関する共通理解や完全実施に向けた準備が十分に整っているとは言い難い現状であり、それは学校における道德教育に関する校内研修の機会の少なさや中教審答申、学習指導要領等の理解不足が大きいと考えられる。

道德の教科化を目前に、学校現場の道德科全面实施に対する様々な不安や疑問を課題として捉えた。具体的には、次の 5 点を解決すべき課題として研修プログラムの内容に位置付けた。

道德科実施の趣旨や経緯への理解不足

道德科におけるめざす授業像に対する曖昧さ

道德科の評価に対する不安や疑問

教科書になり、年間指導計画や別葉等作成に対する不安や疑問

学校全体で推進する授業の指導体制や推進体制づくりに対する悩み

このような課題を捉えて、全面实施までに学校の教員は、行政は、大学の教員養成は具体的に何をすべきなのかを研修において学びながら、その解決に応えたり支援したりする研修プログラムを展開してきた。

特に、平成28年度に実施した「かがわ道德ラボ」の研修プログラムの内容を改善・継続し、道德教育に関する学び続ける場を発展させるために「道德科全面实施を支援する研修プログラムの開発」を行い、教職大学院（研究・養成）、香川県教育委員会（行政）・県教育センター（研修）及び学校現場（実践研究）が学びの場を共有し、より高度な資質能力を身に付けた教員を育成することを第一の目的とした。

さらに、研修プログラムを通じた最終的な成果物として道德教育研修教材「かがわ道德ラボ Q&A」を作成するとともにそれを活用し、県下全体の教員の道德教育指導力向上を図ることを第二の目的とする。スローガンは、「知りたい・聞きたいに応える道德研修」である。

### 2. 開発の方法

教職大学院の道德教育担当に関わる 4 名の教員と県教育委員会や県教育センターの道德教育担当指導主事が、互いの研修や講義等の現状と課題を情報交換したり、研修の内容と方法を繰り返し打ち合わせしたりすることが何より重要であった。その過程で、昨年度の反省や参加者の声に応える内容や「何でも Q&A」の位置付けについても共通理解を図りながら展開してきた。さらに、「かがわ道德ラボ」としての研修会の一部を、大学の教職支援開発センターや教育学部の同窓会組織と共催で参加を呼びかけることで、より多くの方に学びの機会を提供してきた。具体的には、道德教育の充実に資する高度な資質能力の育成を図るために、以下の 3 点に取り組んだ。

#### 道德教育に関する指導力の高度化を図る研修プログラムの実施

- ・かがわ道德ラボ公開講座：教職大学院の道德教育に関する授業科目を公開して、学校の教員や教育関係者が受講できるようにした。（学校現場が夏休み期間中 7 月末に 2 回）
- ・土曜日の午後を活用したかがわ道德ラボ研修会：8 月、9 月、10 月、12 月の土曜日に実施
- ・公開講座や道德ラボ研修会に参加者の声に応える内容や「道德何でも Q&A」の時間を位置付けて、参加者のニーズに応えられるように配慮した。

### 香川県全体の教員の指導力向上を図る「かがわ道德ラボ Q&A」の作成

また、本研修プログラムに参加できなくても、校内研修や個人研修等で活用できる「かがわ道德ラボ Q&A」にまとめて、各学校等へ提供する。

#### 相談や質問への対応と支援～道德教育何でも相談ネット～

また、教科化に伴う不安や悩み等に答えるために、電話やメール、FAX、来訪等による対応を行う「道德教育何でも相談ネット」を実施してきた。県内外から、今年度4月以降に道德教育の教科化や学校での道德の授業づくり等に関する相談や質問等が約50件程あった。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、公開講座の個別質問時間の活用、道德に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。

### 3. 開発組織

組織としては、香川大学教職大学院が核となり、香川県教育委員会・香川県教育センターと連携を図りながら実施してきた。さらに、香川大学教職支援開発センター、教育学部同窓会（松楠会）、香川県小学校教育研究会道德部会、香川県小学校道德教育研究会の協力も得て実施できた。

#### (1) 組織委員

| No | 所属・職名                 | 氏 名    | 担当・役割           | 備 考 |
|----|-----------------------|--------|-----------------|-----|
| 1  | 香川大学教職大学院<br>教授（研究科長） | 毛利 猛   | 総括              |     |
| 2  | 教授（専攻長）               | 有馬 道久  | プログラム開発チーフ、評価   |     |
| 3  | 教授                    | 七條 正典  | プログラム企画・立案・実施   |     |
| 4  | 教授                    | 植田 和也  | プログラム企画・立案・実施   |     |
| 5  | 准教授                   | 齋藤 嘉則  | プログラム企画・立案・実施   |     |
| 6  | 准教授                   | 山本木ノ実  | 関係機関との連絡・調整     |     |
| 7  | 准教授                   | 松下 幸司  | 記録、研修DVD教材撮影・編集 |     |
| 8  | 特命教授                  | 野村 一夫  | プログラムの実施        |     |
| 9  | 特命准教授                 | 松井 保   | プログラムの実施        |     |
| 10 | 課長補佐                  | 野口 里美  | 関係機関との連絡        |     |
| 11 | 学務係専門職員               | 井上 早江子 | 会計、物品購入         |     |
| 12 | 香川県教育委員会<br>義務教育課長    | 久保 博紀  | 事業全体の企画・評価      |     |
| 13 | 主任指導主事                | 中田 祐二  | プログラム企画・立案・実施   |     |
| 14 | 香川県教育センター<br>所長       | 藤井 浩史  | 事業全体の企画・評価      |     |
| 15 | 教職員研修課長               | 齋藤 浩   | 連携協議・評価         |     |
| 16 | 主任指導主事                | 藤澤 一恵  | プログラム企画・立案・実施   |     |
|    | 指導主事                  | 清水 由美  | プログラム企画・立案・実施   |     |

## （２）協議会や打ち合わせ等

３月、４月においては県教委や県教育センター等を訪問し、事前の協議や打ち合わせを実施し、全体の計画と内容の調整を図ってきた。その後、下記のように研修プログラム連携協議会や打ち合わせを組織委員としての香川大学教職大学院、香川県教育委員会、香川県教育センターの担当者を中心に実施してきた。

連携先との協議会（打合せ）の実施状況

研修プログラム連携協議会（組織委員：香川大学、香川県教育委員会、香川県教育センター）

確定するまでの相談や計画段階である３～４月においては、県教委や県教育センター等を訪問し、事前の協議や打ち合わせを実施し、全体の計画と目的や内容の調整を図ってきた。下記以外にも担当者間で詳細な準備等の打ち合わせ等を、メール審議や電話でその都度実施している。

### 【第１回】平成 29 年 6 月 1 日（木）

本協議会の組織体制及びプログラムの年間予定を確認し、運営面の役割分担について、評価と H30 年度以降の継続について見通しについて審議した。また、４月 21 日に教職員支援機構（つくば市）で、かがわ道徳ラボの実施報告をしたことへの参加者の反応等についても説明した。

### 【第２回】平成 29 年 6 月 16 日（金）

７～９月に開催する「かがわ道徳ラボ公開講座」及び「かがわ道徳ラボ研修会」の実施内容について審議した。

### 【第３回】平成 29 年 7 月 24 日（月）

８月から実施の「かがわ道徳ラボ研修会」の案内状配付状況の確認と、研修プログラム全体の進捗状況や「道徳教育研修 Q&A ブック」と「道徳何でも相談ネット」について審議した。

### 【第４回】平成 29 年 11 月 30 日（木）

本年度の研修プログラム全体の中間報告や 12 月の「かがわ道徳ラボ研修会」、1 月の「かがわ道徳ラボ指導者研修会」の実施内容について協議をした。

### 【第５回及び評価委員会】平成 30 年 1 月 24 日（水）

研修プログラムの評価及び次年度以降について、学校現場の道徳教科化への対応や状況等を踏まえて検討する予定。

## 開発の実際とその成果

### １．かがわ道徳ラボ公開講座

#### ○研修の背景やねらい

香川大学教職大学院では、道徳教育を柱とする特色あるカリキュラムを編成し、道徳教育に関する授業科目を３科目設定している。その授業内容の２回分を公開講座として実施し、教科化に係る情報や道徳教育、道徳の授業づくりについて、学校の教員に無料で教職大学院生とともに学ぶ機会を提供した。

公開講座 では、講義「道徳科の学習指導要領を読み解く」として、「道徳教科化のポイント、

学習指導要領解説で確認、多様な質の高い指導方法について」を中心とした。さらに、「道徳教育でのタブレット活用」についても具体的な授業活用をイメージして演習を実施した。

公開講座では、外部講師を招いて、「授業改善をめざした教材研究と推進体制」を中心とした。さらに、香川大学の担当教員より、「発達障害等の特別な支援が必要な児童生徒への指導と配慮」についても取り入れて講話を位置付けた。

○事業内容、日時、会場、人数、対象、講師

| 事業内容        | 日時                                 | 開催場所             | 参加人数 | 対象       | 講師                       |
|-------------|------------------------------------|------------------|------|----------|--------------------------|
| かがわ道徳ラボ公開講座 | 平成 29 年 7 月 24 日(月)<br>13:00～16:00 | 香川大学<br>教育学部 431 | 42 名 | 学校、教育関係者 | 教職大学院(七條、植田、齋藤、松下、坂井)    |
| かがわ道徳ラボ公開講座 | 平成 29 年 7 月 31 日(月)<br>13:00～16:00 | 香川大学<br>教育学部 431 | 42 名 | 学校、教育関係者 | 坂井親治、教職大学院(七條、植田、齋藤、山本、) |

○各研修項目の配置の考え方

学校現場では、様々な課題への対応や多忙な日々において、中教審答申や学習指導要領解説等を読み込む時間や余裕がないとみられる。そこで、教科化に関する基本的なポイントを講義形式で、授業改善の具体的な視点や学校づくりに生かせるヒント等を演習と講義で分かりやすく実施しようと考えた。その際に、学習指導要領の基本的な理解や授業づくりにおけるポイントとして発問を個人やグループで検討する時間を設けた。公開講座で参加者の声に応えるように「道徳何でもQ & A」の時間を位置付けて、参加者のニーズに応えられるように配慮した。

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

| 事業内容<br>実施形態<br>時間数                           | 各研修項目の内容                                                                                      | 使用教材、進め方                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| かがわ道徳ラボ公開講座<br>講義・演習<br>(タブレットの活用)<br><br>3 h | 講義「道徳科の学習指導要領を読み解く」<br>・道徳教科化のポイント、<br>・学習指導要領解説で確認、<br>・多様な質の高い指導方法について<br>演習「道徳教育でのタブレット活用」 | 使用教材：配布資料、テキストはパワーポイント資料<br>中央教育審議会答申、小・中学学習指導要領、<br>学習指導要領解説「特別の教科 道徳」<br>・参加者の勤務校での課題や学びたいことを一言ずつ紹介する等、質問しやすい雰囲気づくりに配慮した。<br>その後、講義「教科化のポイント」と演習「道徳教育でのタブレット活用」を実施した。「道徳何でもQ & A」として、質疑の時間を設けた。最後に各学校の個別相談に応じる時間を設けた。「道徳何でもQ&A」等、大学教員だけでなく県教育センターの指導主事も、質疑応答等に対応した。                         |
| かがわ道徳ラボ公開講座<br>講義・演習<br><br>3 h               | 講義「授業改善をめざした教材研究と推進体制」<br>ミニ講話「発達障害等の特別な支援が必要な児童生徒への指導と配慮」                                    | 使用教材：小学校学習指導要領解説、中学校学習指導要領解説「特別の教科道徳」、配付資料<br>講座のテーマを「道徳科の趣旨を踏まえた授業改善」として、外部講師の坂井親治先生に具体的な教材研究や指導事例をもとに「授業改善をめざした教材研究と推進体制」で演習を取り入れながら実施した。ミニ講話では、本学の山本准教授が「発達障害等の特別な支援が必要な児童生徒への指導と配慮」について学習指導要領や専門家会議報告をもとに話した。「道徳何でもQ & A」では、評価や教科書、年間指導計画についての質問が出された。そのようなことを9月、10月の道徳ラボで具体的に取り扱うことも伝えた。 |

## ○実施上の留意事項

若年の先生や道徳担当ではない先生方も一部参加してくださっていたので、教科化に係る基礎的な事項や用語等の確認にも配慮した。また、第一回講座では、現在、一部改正学習指導要領、道徳科の解説等が文部科学省のホームページ上からダウンロードしなければいけないので、タブレットを活用した。

具体的には、学習指導要領や学習指導要領解説特別の教科 道徳、中央教育審議会答申、専門家会議報告、文部科学省ホームページ内の道徳教育アーカイブ（授業映像等）等の関係資料サイトへのブックマークを Web アプリ上で登録・整理しておいた。タブレット端末上で「道徳関係」としてフォルダーを作成し書類を貼り付けて利用しやすい環境づくり（iPad を活用して、PDF ファイルを iBooks に保管した）や、具体的な演習の一例として、3 M社が提供している「Post-it Plus」というアプリを取り上げ一つの例として行った。そこでは、交流やグループ活動において、児童生徒の思考を活性化させるために、付箋紙を活用する場面を想定して演習とした。付箋紙を用いて思考過程や要素を表出させることは、他者の思い・考えを知るだけでなく、自己の思い・考えを再整理・再認識し、他者の思い・考えと繋げ比べながら思考を拡げるために効果的な方法である。そのことをタブレットを用いて、体験的に学べる研修とした。（詳細は、かがわ道徳ラボ Q&A の Q19 を参照）それ以外にも、キーワード分析（話し合い活動サポーツール）や特別な支援を要する児童の気持ちを表現する「きもち日記」等のアプリもタブレットで紹介、体験することができた。

## ○研修の評価方法、評価結果

評価方法として、参加者に内容や開催日時、自由記述で回答を求めた。

公開講座、とも下記の通り、内容には大変高い満足度を得られたが、開催時期や時間等には夏季休業中の研修との重なり等、難しい面も見られた。

「かがわ道徳ラボ公開講座 2017.7.24（月）開催」のアンケート集計結果は下記の通りである。42 名参加 アンケート結果（22 名分回収）

|                 |                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 .<br>開催日時について | 満足…………… 14 名<br>どちらかという満足… 5 名<br>どちらかという不満… 3 名<br>不満…………… 0 名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高松市は香小研高松支部の研修会が午前中にあり、会場によっては香川大に遠く来にくかった。</li> <li>・できればもう 30 分遅らせてほしかった。</li> <li>・夏休みすぐで学校を出やすい時期である。</li> <li>・夏休み中であるため参加しやすかった。</li> <li>・夏休みの最初なので研修に参加しやすい。また、じっくり研修できるので 2 学期に生かせる。</li> <li>・夏休みの最初であり、勉強しようとする課題について考える事ができるのでちょうどよかった。</li> <li>・部活動があるので午後からの開催はありがたい</li> <li>・7/31 と 8/5 は香中研の夏季研や合唱コンクールと重なり参加できない。 他</li> </ul> |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                    |                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 .<br>内 容 に つ い て | 参考になった…………… 20名<br>どちらかという参考になった<br>…………… 2名<br>あまり参考にならなかった0名<br>参考にならなかった…………… 0名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの情報，資料がありすっきりとわかりやすく話していただいたので少し頭の中が整理できた。</li> <li>・書くことに抵抗がある子どもたちへの支援ツールやタブレット、アプリの活用が知れて良かった。</li> <li>・いろいろなアプリの紹介も勉強になった。指導要領のなかでも特に変更した点など要点をおさえた説明をしていただいたので校内でも研修に生かしたい。</li> <li>・評価の仕方やタブレットの使い方など，自分では準備がなかなかできない資料を読むことができて勉強になった。効率的に作業できそう。</li> <li>・道徳教科化のポイントについて確認することができた。特別な支援を要する子どもへのタブレット活用について具体的な話が聞けて参考になった。発達障害児の道徳の指導について知りたかったので資料などいただき学校の方へ還元できる。</li> <li>・学習指導要領を読んで勉強しようと思うきっかけとなった。タブレットの使用法やアプリについて知ることができた。道徳の時間で求められることや取り組んでいくことが自分の中で明確になった。</li> </ul> |
| 3 .<br>Q&A に つ い て | 満足…………… 10名<br>どちらかという満足・ 10名<br>どちらかという不満… 0名<br>不満…………… 0名<br>未回答…………… 2名         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場の生の声が出ていた。先生方のおこたえも現実的でよかった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

4 . 今後，道徳科の全面実施に向けて勤務先では何が一番不安ですか。

- ・評価。今日の研修で少し手がかりがつかめた気がした。記述の仕方についてまだよくわからない。また，日々の授業でどのように子どもをみとっていくか，みとっていけるかが不安。
- ・評価のためのノート等の見取りの仕方が難しい。学習指導の趣旨をふまえて要録や通知表に具体的にどのように記載できるのか。
- ・どのように先生方へ伝え，実施していくか。（指導技術をそろえていくこと）
- ・学校，学年団等で足なみをそろえて進めていけるかどうか。教員による温度差，時数確保等。
- ・全教員がなるべく足並みをそろえてスタートできるか。教員の力に個人差があるため。
- ・検定教科書を使ってうまく道徳科の授業ができるのか？徳目の周知に終わらないような指導法を確立できるのか？その効果的な活用に不安。
- ・現在，特別な支援を要する児童が増加している。道徳の教科化でこのような子どもにとっても道徳の指導法や道徳のユニバーサルデザイン化をどう進めていけばいいのかを考えている。
- ・しっかりとした指導体制が望まれるところがあるだけに何が特別なこととしなければという不安と評価がまたひとつ増える負担も大きい。

2 . 自由意見等

- ・今日は高知から参加した。香川大の先生方や現場の先生の話が聞けてとても参考になった。
- ・タブレットの活用に関心が高まった。とても参考になった。道徳を実施する。授業していくのは難しい。いろんな事をもっと学びたい。とても刺激的で楽しくあっという間の時間だった。

# かがわ道徳ラボ公開講座 2017.7.24 (月)



【専攻長より開会の挨拶】



【学習指導要領等のポイント説明】



【具体的な事例について アプリ活用】



【タブレットの活用について】



【演習：付箋紙を活用してタブレットで】



【演習：実際の授業を想定して】



【 道徳何でも Q&A 】



【大学院の道徳科授業科目に関する情報の紹介】

「かがわ道徳ラボ公開講座 2017.7.31(月)開催」のアンケート集計結果は下記の通りである。42名参加 アンケート結果(25名分回収)

|                 |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 .<br>開催日時について | 満足…………… 17名<br>どちらかという満足… 8名<br>どちらかという不満… 0名<br>不満…………… 0名                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の研修等と重ならない日時でありがたかった。</li> <li>・長期休業中(特に夏休み中)がありがたい。ただ、本日は香中研の研修会の指定日であり、参加したくても参加できない教員もいた。</li> <li>・夏休みは出やすいのでよいと思う。</li> <li>・30分遅くしていただいたらありがたい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2 .<br>内容について   | 参考になった………… 22名<br>どちらかという参考に… 3名<br>あまり参考にならなかった… 0名<br>参考にならなかった………… 0名    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業の重要性を感じた。</li> <li>・坂井先生の深い教材研究に基づいた授業に感動した。生徒理解の必要性も感じた。(授業力の高さはもちろんのことですが)</li> <li>・授業実践をもとにとっても分かりやすい内容だった。生徒主体で授業がすすめられるよう教材研究をしていきたい。よかった。非常におもしろかった。</li> <li>・中学校という発達段階から考えても、話し合いたい内容を自分達で考えられるのはよかった。一方で、話し合われなかった内容やそれを考えた子へのフォローはどのようにしたのだろうか。</li> <li>・幅広い視点、視点からの話があり、大変参考になった。坂井先生の実践に基づくお話がよかった。実践をまじえての発表だったので参考になった。</li> <li>・坂井先生の実践はすべてに熱がこもっていて心打たれた。評価(次年度の全面実施以後の)についてもお話がいただけたらもっと良かった。</li> <li>・指導と評価の一体化を常に意識しないといけないと改めて感じた。評価について、もう一歩踏み込んで話をしてほしい。</li> </ul> |
| 3 .<br>Q&A について | 満足…………… 17名<br>どちらかという満足… 5名<br>どちらかという不満… 0名<br>不満…………… 0名<br>未回答 …………… 3名 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

4 . 今後、道徳科の全面実施に向けて勤務先では何が一番不安ですか。

- ・教育課程の作成(教科書の内容、書道研の読み物資料など、どう取り入れていけばいいのか)。
- ・道徳科の授業の質的向上。
- ・教科書が決まることでその内容を今年度中に理解し計画等へ反映していくことになる。その時間を確実に確保していく必要がある。半年でどのように準備していくのか。
- ・道徳教育推進チームを作り、進めていっている。新しいことを入れながら教員の意識が少しずつ変わっているのを感じるが、そこへ行くまでにはかなりの時間がかかってしまう。効果的な進め

方をするにはどうすればよいか。

- ・教科化について、学校全体で共通理解を図ること、自分自身が伝えられるのかどうか不安。
- ・組織で取り組むという態勢がとれていない。教員に温度差がある。(個々には取り組んでいるが)校長先生のリーダーシップが必要。
- ・こなすことに終始してしまってこれまでの経験知や自分なりの認識だけに頼ってしまわないかと懸念される。それぞれが薄っぺらい実践になってしまわないよう、こだわられる機会を作っていきたい。
- ・評価について、具体的な方法例等を知りたい。評価の仕方や文章例について。
- ・道徳の授業自体のとらえ方が固い。恐らく、体育や図工の指導が変わらないのに似ている。つねに答えありきの授業になっている。何が正しいかではなく、何を大事にして自分の考えを決めるべきなのか考える授業になっていない。
- ・35 時間は、1 時間、1 資料で、35 時間すべきか。35 時間の授業実施。
- ・担任だけが苦しむことになること。全員の授業力ややる気を向上させることができるのか。
- ・「今、何を準備していないといけないか」がはっきりしていないので不安。
- ・全員の意識統一が難しく、足並みがそろわない。道徳の主任だが、皆さんに伝えられない。
- ・保護者、地域住民への発言、説明等を通して理解を求めること。
- ・道徳については、まだまだ理解できていない。授業としての改善をお願いしてもなかなかままならないのが現実。推進体制がうまくいっていない。道徳主任だけがしんどい状況。

## 5 . 自由意見等

- ・現職教育等で他の教員と共通理解し道徳の授業を大切にしていかなければならない。
- ・具体的な資料をもとに考えることができ、とても参考になった。
- ・ラボに参加することで新しいことを学ぶことができ大変有り難い。校務等と重なることもあり、全てに参加することがむずかしいが、これからも参加させていただきたい。
- ・坂井先生に真のリーダーの姿を学ばせていただいた。遠慮せず何とかしぶとく微力ながら私も頑張ってみようという大いなる勇気、やる気をいただいた。
- ・たくさんの資料や情報を得ることができた。
- ・道徳について、これからも学ぶ場を作っていきたい。
- ・その子のもっている特質上、資料の主人公の気持ちが分からない。自分の経験の中になから分らない。友達の意見を取り入れられない等の課題を持つ子がいる。どう授業に参加させるか、私が関わっていくか夏休み中にまた考えていきたい。

# かがわ道徳ラボ公開講座

2017.7.31（月）



【質の高い指導方法について】



【発達障害等の子どもへの配慮について】



【教科化のポイント、授業づくり】



【講師：坂井先生の教材研究と授業づくり】



【演習：各グループでの話し合い】



【演習：教材研究について】



【具体的な授業実践をもとに】



## ２．かがわ道徳ラボ研修会

### ○ 研修の背景やねらい

土曜日の午後を活用して、かがわ道徳ラボ研修会を ～ まで、８月、９月、１０月、１２月に実施した。県教育センター指導主事と大学の教員が協働して、各研修会を企画・運営してきた。各かがわ道徳ラボ研修会では、県教育委員会や県教育センターの担当指導主事にも共に当日の進行やシンポジスト、また会場を県教育センターとして活用させていただいた。

各研修会では、「知りたい、聞きたいに応える研修」として、学校現場のニーズや困り感を捉えて、特に、道徳科の評価と教科書を活用した年間指導計画や別葉の作成等について、取り上げることとした。さらに、その過程において、道徳を担当している教員とそうでない教員の交流、研究者や行政担当者と教員の交流、教員ＯＢや大学院生と現職教員の交流等、様々な形で道徳教育を話題に交流が広がることをもう一つのねらいとした。

### ○ 研修の目的・日程等

平成 29 年度のかがわ道徳ラボ研修会（事業内容、日時、会場、人数、対象、講師）

|                                                |                                        |              |       |              |                                                                                |
|------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------|-------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| かがわ道徳ラボ<br>研修会<br>「質の高い指導方法を求めて」               | 平成 29 年 8 月 5<br>日（土）<br>9:30～12:00    | 香川大学教育<br>学部 | 35 名  | 学校、<br>教育関係者 | 大学担当教員、<br>県教育センター指導主事、                                                        |
| かがわ道徳ラボ<br>研修会<br>「道徳科の評価と<br>年間指導計画について考える」   | 平成 29 年 9 月 30<br>日（土）<br>13:00～17:00  | 香川大学教育<br>学部 | 106 名 | 学校、<br>教育関係者 | シンポジスト：堀田竜次（教職員支援機構チーフ・研修プロデューサー）<br>柴原弘志（京都産業大学教授）<br>大学担当教員、<br>県教育センター指導主事、 |
| かがわ道徳ラボ<br>研修会<br>「校内研修と評価<br>の具体的な進め方について考える」 | 平成 29 年 10 月 28<br>日（土）<br>13:00～17:00 | 香川大学教育<br>学部 | 99 名  | 学校、<br>教育関係者 | 鈴木賢一（愛西市立八開中学校）<br>大学担当教員、<br>県教育センター指導主事、                                     |
| かがわ道徳ラボ<br>研修会<br>「道徳科全面实施<br>に向けて再確認」         | 平成 29 年 12 月 9<br>日（土）<br>13:00～17:00  | 香川県教育センター    | 134 名 | 学校、<br>教育関係者 | 澤田浩一（文科省教科調査官）<br>横山利弘（日本道德教育学会名誉会長、元教科調査官）<br>七條正典（本学教員：元教科調査官）               |

○ 各研修の内容、進め方等

平成 29 年 8 月 5 日（土）かがわ道徳ラボ研修会 （香川大 多目的ホール）

かがわ道徳ラボ研修会 では、道徳科の質の高い多様な指導方法や特別支援教育の視点からも、学習指導要領や専門家会議報告等をもとに学ぶ場づくりを提供した。さらに、校内道徳研修や道徳科でのタブレット活用や情報モラル教育についても、タブレットを使用した演習を取り入れて実施した。「道徳何でも Q&A」では、県教育センター主任指導主事と大学教員が協働して質問に対し具体的に答えることができた。内容の構築から運営に至るまで、連携を図りながら学校現場の教科化に向けた不安や悩みを共有し、ともに考えていこうとする趣旨を生かして実施できた。

平成 29 年 9 月 30 日（土）かがわ道徳ラボ研修会 （香川大 教授法演習室）

かがわ道徳ラボ研修会 では、外部からの講師も招いて、特に教科化に係る道徳科での評価と年間指導計画の作成等にポイントをおいて研修会を実施した。「道徳何でも Q&A」では、参加者から教科書の使用や年間指導計画等について具体的な不安とともに質問が出された。会場は 100 名を超える満席状態であり、大好評であった。各講師の方からも参加者の意欲の高さに驚いた旨の感想が聞かれた。

平成 29 年 10 月 28 日（土）かがわ道徳ラボ研修会 （香川大 教授法演習室）

前回の内容を受けて、より具体的な手順や実践の様子を共有できるように、2 年間続けて学校をあげて評価に取り組んでいる中学校現場の実践者を招いて研修会を実施した。参加者からは、満足しただけでなく、「素晴らしい実践でイメージができた。大変参考になりもう一度聞きたい。」等の声が多数寄せられた。「道徳何でも Q&A」では、教員の一体感や評価内容の書きにくい子供等への配慮等の質疑応答が行われた。

平成 29 年 12 月 9 日（土）かがわ道徳ラボ研修会 （香川県教育センター）

教職大学院と県教育センターの共催により、教科化に係る最新の情報を学校現場の教員に提供する学びの場となることを願い計画した。土曜日ではあるが、県の施設である県教育センターを会場として開催した。12 月は、まとめの道徳ラボ研修会なので、現調査官の講演を受けて、横山元調査官と七條元調査官の対談を位置付け、具体的な道徳科の授業づくりについても触れることとした。その際に、参加者が教科化全面実施にあたり、平成 30 年度に具体的に何をすべきか、どのように校内研修や授業等を考えていくべきなのかをイメージができるような内容にすることを大切に考えた。

## アンケート結果

平成 29 年度 道徳ラボ研修会 平成 29 年 8 月 5 日（土）9:30 - 12:00

アンケート回収（18 名分）

|                     |                                                                                    |                                                                                                                                                       |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 .<br>開催日時<br>について | 満足…………… 4 名<br>どちらかという満足…… 3 名<br>どちらかという不満…… 1 名<br>不満…………… 0 名                   | ・ 夏休みの実施がよい<br>・ 今回の土曜日午前中は参加しやすい<br>・ 平日は校内研修などがあり参加しにくい                                                                                             |
| 2 .<br>内容につ<br>いて   | 参考になった…………… 18 名<br>どちらかという参考になった<br>0 名<br>あまり参考にならなかった 0 名<br>参考にならなかった…………… 0 名 | ・ 問題解決方法に関する学習の意味が理解できた<br>・ 解説ポイントが参考になった<br>・ ポストイット、アプリやソフトの情報を得られた<br>・ 具体的な実践例を知ることができた<br>・ 特別支援の視点での指導と配慮について学べた<br>・ よかった、タブレットの話をもう少し聞きたかった。 |
| 3 .<br>Q&A に<br>ついて | 満足…………… 12 名<br>どちらかという満足…… 4 名<br>どちらかという不満…… 0 名<br>不満…………… 0 名<br>回答なし…………… 2 名 | ・ 事前に質問を募って回答する時間にしてはどうか                                                                                                                              |

### 1 . 今後、道徳科の全面実施に向けて勤務先では何が一番不安ですか。

- ・ 教科書と他の教材をどう使っていくとよい
- ・ 教科書の使い方や教材を自作する場合の著作権問題
- ・ 子どもの実態に応じた学校としての指導について
- ・ 教職員の共通理解を図るためにどうすればよい
- ・ 研修の機会の確保が難しい
- ・ 授業力や評価について
- ・ 今年度中に何を準備したらよい

### 2 . 自由意見等

- ・ じっくり学びたい
- ・ 有益な情報を得ることができた
- ・ 学習指導要領をじっくり読みたいと思う
- ・ 子どもの様子から感じ取れることを大事にしたいと思う
- ・ 研修の機会がもっとたくさんあるとよい
- ・ 研修が夏期又は冬期休暇中に実施されると参加しやすい

# かがわ道徳ラボ研修会

2017.8.5（土）



【多様な指導方法と授業づくり】



【特別支援教育の視点から】



【演習：道徳科でのタブレットの活用、具体的なソフトやアプリでの事例等も紹介】



【シンポジウムと道徳何でも Q&A】



【参加者からの質問にも様々な立場から返答】

平成 29 年度 道徳ラボ研修会 平成 29 年 9 月 30 日 (土) 13:00 - 16:55

アンケート回収 (76 名分)

|                     |                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 .<br>開催日時<br>について | 満足…………… 5 8 名<br>どちらかという満足… 1 7 名<br>どちらかという不満… 1 名<br>不満…………… 0 名                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日は無理なので土曜開催はありがたい、学校行事と重ならなければ参加できるので気楽に参加できた</li> <li>・県外からの参加なのでありがたい</li> <li>・午前中にしていただけるともっとありがたい</li> <li>・部活動があり参加しづらかった、特にこの時期は新人戦も近く他の先生方は敬遠しがちであった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2 .<br>内容につ<br>いて   | 参考になった…………… 7 3 名<br>どちらかという参考になった… 3 名<br>あまり参考にならなかった 0 名<br>参考にならなかった…………… 0 名   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今一番知りたい内容でした、11 月に県教委主催の研修会があるのですごく助かりました</li> <li>・何も分からないまま道徳主任をしているので「すべきこと」として年間計画や別葉など具体的に示していただいでよかった、できれば見本のようなもの事例、実際のものがあれば参考に作りたいので資料にいただきたい</li> <li>・「別葉」というものがどういうものなのかこれまで以上によく分かった、評価についても何をどのように評価するのかがよく分かった</li> <li>・特に評価についての具体が大変参考になった</li> <li>・評価についてだけでなく授業づくりの面でも自分の悩んでいたことについて話をきくことができた</li> <li>・シンポジウム講演も両方よかった、勉強になった</li> <li>・計画と評価、緊近の課題について絞って構成されていたので大変役立つものであった</li> <li>・評価について分らなかったことが具体的に示されてとてもすっきりした</li> <li>・見ているようで見えてない解説についての話が聞けてよかった、熟読することが大切だと痛感した</li> <li>・一番知りたい評価について話が聞けて大変勉強になりました、もっともっとお話聞きたかった</li> <li>・評価について熱のある話を聞かせて頂いて勉強になった、本校の他の先生方にも聞かせたい話でした、道徳の解説をしっかりと読みたい</li> <li>・最先端の道徳、やらなくてはならないことをピンポイントで学べるから …… 他</li> </ul> |
| 3 .<br>Q&A に<br>ついて | 満足…………… 5 4 名<br>どちらかという満足… 1 9 名<br>どちらかという不満… 1 名<br>不満…………… 0 名<br>回答なし…………… 2 名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の扱いについて高知県各教育事務所の主事と共通理解ができた</li> <li>・教科書活用の現状が分かった</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

#### 4. 今後、道徳科の全面実施に向けて勤務先では何が一番不安ですか。

- ・ 道徳は担任の裁量に任されているところが大きい、足並みをそろえて一斉にスタートできるのかどうか 他校でよく聞くローテーション道徳や TT であるが実施するには職員間での打ち合わせ等が必要で部活動を休みにする日もあると聞く、部活動が盛んでベテラン体育教員がそろっている本校ではなかなか難しい
- ・ やはり評価だと思う、本日うかがったことをいかに自校で伝えていくのだが、一つ一つ少しずつでも実践しながら来年度に備えたい。今日説明もあった学びのたよりや所見の文章、評価方法の共通理解（担任任せ、団任せになるのではないかと信頼性の担保）保護者への説明など
- ・ 道徳科について準備をすすめていく時間、余裕がない。平日は放課後でさえ時間がとれない、行事や毎日のことでいっぱい。教科化になると分かっているがどうしても道徳は後まわしにされてしまう
- ・ 別葉も年間計画も手をつけられていないので、これからどのようなことが各学年団におりてくるのか心配で不安です、また新しい教材の準備もあり、すべきことが多く焦る
- ・ 年間計画を立てたいが教科書、副読本が手に入らず教科の内容がわからない
- ・ 教科書の取り扱いについて周知の会で説明をしなければならないが学指には「併せて」とは記述されているが「差し替え」とは記述されていません、しかし学校の重点目標を意識して作成される年計では教材の差し替えが必要となってくる、この「差し替え」の言葉が使えないのが苦しい状況です
- ・ 評価に関すること、教材に関することについて聞けてよかった、具体的記述例が挙げられていたことは大変有り難かったが校内で先生方に説明伝達していけるかと少し不安もある
- ・ 評価を何をもとに行うのか、多面的、多角的、自分事として考えるためにはどのような発問をすべきか、学習のふりかえり（まとめ）場面での発問はどうすべきか、新学習指導要領が意図する具体的授業の姿が今現在取り組んでいる授業でよいのか、モデルが少なく不安にもつ教員が多い
- ・ 全体計画の作成、別葉、評価
- ・ 共通理解、共通実践です、特にベテランどころの教師（今まで道徳に前向きでなかった）
- ・ 共通理解を図るための校内研修の進め方
- ・ 校内研修の在り方、小中の連携をいかに進めていくか、中が小より一年遅れの実施でスタートが遅れてしまっている、小と同一歩調が必要だったことに本日気づかされました
- ・ 他の先生方に道徳のアーカイブなどにある授業と一緒に見る機会を作って授業公開を設定するなど同じ視点での授業改善がどこまで出来るのか不安
- ・ 1時間の授業の評価は必要だと思うがその在り方（考え方）や学習指導案にどのように明記したらよいのか教えてほしい、また今までは「～の気持ちを高める」といった目標が多かったが今後もそれでよいのか・・・他

# かがわ道徳ラボ研修会

2017.9.30(土)



【シンポジスト：年間指導計画の作成手順】



【シンポジウムでの熱い議論】



【シンポジスト：教科化ポイントの確認】



【シンポジスト：年間指導計画や別葉】



【道徳何でも Q&A】



【講演：柴原 弘志 先生】

## アンケート回収（67 名分）：

|                     |                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 .<br>開催日時<br>について | 満足…………… 46 名<br>どちらかという満足・ 21 名<br>どちらかという不満・ 0 名<br>不満…………… 0 名                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回、今回、次回と 2 学期、1 ヶ月程度の間隔でとても良かった。（行事等重なるのは仕方ない）</li> <li>・ 全ての校種の先生方が満足する時期というのではないと思う。大学もお忙しい中、回数重ねて開催いただきありがとうございます。道徳ラボ と間を開けずに今回のお話が伺えたので、より課題意識を持って話を聞いた。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2 .<br>内容につ<br>いて   | 参考になった…………… 65 名<br>どちらかという参考になっ<br>た… 2 名<br>あまり参考にならなかった…<br>…… 0 名<br>参考にならなかった… 0 名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価について初めて具体的なイメージが入ってきた。どこまでできるか、まだ見えてはいないがポイントがたくさんあった。校内研修すばらしかった。</li> <li>・ 具体的な実践を詳しく紹介していただき参考になった。自分の授業を見直す良い機会になった。授業を通して思考を深める過程に感動した。チームで評価をしていくという考え方も本校になかったので取り入れたい。</li> <li>・ 今後校内で教科化に向けて情報を提供していかなければいけない立場として校内研修の進め方、評価についての話を聞いたのは大変良かった。例文も参考になった。</li> <li>・ 評価の仕方が分かった。こんな積極的な授業を初めて見て驚いた。校内研修という取り組みをしてみたい。</li> <li>・ 評価が良さを見つけ、伸ばし成長を促すものだけでなく指導に生かす評価となるように努めることが大切であること。授業や指導に生かす視点がよく分かりました。</li> <li>・ 鈴木先生のすばらしい実践に深く感心した。今まで様々な道徳教育の研修を受けましたが一番良かった。</li> <li>・ 校内研修をまずは自主参加にするというのは抵抗が少なくなくて良いと思う。回数、内容も参考になった。評価についても考え方等、大変ご苦労されながら形にしてきたものを示していただきありがたい。</li> <li>・ 要点が分かりやすい。忙しすぎて学校現場の教員の力が道徳を軸に発揮されればと夢を見せてくれた。</li> <li>・ 豊富な実践例を詳しい資料を示していただき、日頃悩んでいること、課題になっていることへの解決への道筋が見えた。鈴木先生の細かで丁寧な作業に感銘を受けた。</li> <li>・ 評価の具体的な方法が提示され分かりやすかった。ポートフォリオも見せていただき、ありがたい。</li> <li>・ 評価についてとても分かりやすく悩みも共感できた。活発な研究研修をされている様子が刺激になった。</li> </ul> |
| 3 .<br>Q&A に<br>ついて | 満足…………… 44 名<br>どちらかという満足・ 18 名<br>どちらかという不満・ 0 名<br>不満…………… 0 名<br>回答なし…………… 5 名       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間は短いがみんなの質問が出た。</li> <li>・ 時間が不足して残念でした。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

#### 4．今後、道徳科の全面実施に向けて勤務先では何が一番不安ですか。

- ・どう担任に、全教職員に広げるか・・・教科書に沿って指導書通り文例集の参考とならないように授業改善につなげていきたい。
- ・道徳を軽く見ていて教科化に向けての取り組みに対して協力しない教員がいること。管理職がリーダーシップを発揮しないこと。
- ・これまでの勤務校でたいてい同じ時間に道徳を行っていたので、他の先生の授業を見たことがあまりない。我流のマンネリ化した授業になっているので、鈴木先生のような方の普通の授業が見てみたいと思う。また校内でもお互いに普段の授業を参観できる空気を作りたい。
- ・全教員の協力が得られるかどうか。全生徒を正しく評価できるのかどうか今でも多忙な中でそれができるのかどうか。
- ・道徳の授業について、職員全体で考えたり、話し合ったりする機会が少ないこと、他の先生の授業を見に行きたいが授業がありほとんど行けない。
- ・評価の仕方。時間の確保（学活を学年で行うことが多く、クラスでしたいことができず、道徳を使うことが現在多い）。道徳が苦手。生徒も私も楽しそうじゃない。「道徳何するん?」「ちゃんと道徳するよ」「えー」と言う話をよくする。
- ・推進教員が熱心にこうしていきましょと全教員に伝えても中には後ろ向きの教員もいる。後ろ向きでも勇気づけて明るく道徳教育を推進していくにはどうしたらいいのだろうと、心の中で悩んでいる。
- ・教員研修をどのようにやっていくか。ローテーション道徳をしたいと思っているが、時間割がそれを可能にできるよう組めるのか、評価をどうするか。
- ・テーマに迫る有効な発問作り。振り返り、まとめをどこまでしていくのか。(one end 以外の教材で) 人間理解についてどこまで、どこで触れるのか。
- ・学年団でワークシートを作成し配布してくれる場合、自分が行いたい授業用に作り換えることは抵抗がある。
- ・道徳 3 5 時間の確保と検定教科書を使った指導と評価。
- ・評価について不安があったが今日の鈴木先生のお話を聞き方向性が見えてきた。
- ・評価への負担感。教材分析の方法。
- ・教師間に道徳に対する意識の差がある。1 時間でまとめなければいけないという意識が教師にある。
- ・県内・管内の学校で道徳科をスタートさせるために、どういう支援が必要かをはっきりさせて、改訂のポイントを分かりやすく伝えること。
- ・評価について。授業の進め方について（他クラスとのバランスなど）。
- ・年間計画も別葉も作成されていないし、評価についても全く触れられていないので、今後どのような準備が必要か心配。
- ・評価の共通理解と方向性を決めること。
- ・道徳に授業をする上で先生方の意見に違いがあり、なかなか学校をあげてといった取り組みがしづらいこと。教材研究の時間がとりづらい。

## かがわ道徳ラボ研修会

2017.10.28(土)



【本学 齋藤嘉則】



【講師： 鈴木 賢一 先生】



【本学 七條正典】



【本学 植田和也】



【道徳何でもQ & A】



【参加者からも多くの質問が出される】

平成 29 年度かがわ道德ラボ研修会 日時：平成 29 年 12 月 9 日（土）13:00 - 16:55

アンケート回収（89 名分）：

|                                                   |                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 .<br>平成 29 年度のか<br>がわ道德ラボに何<br>回目の参加になり<br>ますか。 | 1 回目…………… 4 1 名<br>2 回目…………… 1 3 名<br>3 回目…………… 2 1 名<br>4 回目…………… 1 0 名<br>5 回目…………… 1 名<br>6 回目…………… 3 名                              | 7 月 2 4 日…………… 6 名<br>7 月 3 1 日…………… 8 名<br>8 月 5 日…………… 1 2 名<br>9 月 3 0 日…………… 2 6 名<br>1 0 月 2 8 日…………… 2 8 名<br>1 2 月 9 日…………… 8 9 名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 2 .<br>本日の開催につい<br>て何を通じてお知<br>りになりましたか。          | 香川大学教職大学院の H P・2 0 名<br>学校への案内状…………… 2 6 名<br>関係者からのメール案内… 1 9 名<br>前回のラボに参加して…… 3 1 名<br>センセイポータル等の H P・ 2 名<br>その他…………… 1 8 名<br>複数回答 | その他として、職場の先生のすすめ<br>・ 大学教授のお誘い、・ 岡山県教委からの案内<br>・ 関係者からの案内状、・ 昨年のラボ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 3 .<br>内容について                                     | 参考になった…………… 7 9 名<br>どちらかというと参考に… 1 0 名<br>あまり参考にならなかった… 0 名<br>参考にならなかった…………… 0 名                                                      | ・ お二人の先生の対談の中に、授業づくりのヒ<br>ントが多くあったように思う。道德について<br>より深い理解ができた気がする。横山先生と<br>七條先生の対談、もっと聞いていたかった。<br>・ 澤田先生の筋道だった内容、分かりやすかつ<br>た。これからのことも参考になったが、普段<br>の授業での声かけ等のヒントを得ることが<br>できた。新しいことを学べた。<br>・ 評価の方法や道德の授業づくりにあたって工<br>夫する部分等、今後実践できそうな、また、<br>実践していかなければならない内容が学べ<br>たから。<br>・ 実践に即した話、全体的な概要を聞くことが<br>できた。道德の教科化に向けて知りたい情報<br>が提供された。<br>・ 読み物教材で生き方を考えるという視点で教<br>材研究をやっていき、問いの場所、問い方を<br>考えていくことが大切だと学んだ。<br>・ 先生方の人間味あふれるお話がきけて、楽し<br>かった。具体的な価値内容をあげて対談して<br>いただき、分かりやすかった。<br>・ 澤田先生のお話はこれからのカリキュラムづ<br>くりや授業づくり、評価において大切なこ<br>と、注意することを分かりやすく示していた<br>だけだと思う。<br>・ 澤田先生のお話はとても分かりやすかった。<br>これから自分の授業を考えるポイントとな<br>るものを教えていただけた。対談もとても良<br>かった。お話は分かりやすく、授業づくりで<br>大切なことをたくさん教えていただけた。 |

4．次年度も道德ラボが継続されるとすれば、どのような内容を期待しますか。

- ・ 道德の授業について→発問や展開のあり方、交流のあり方、全体交流のあり方
- ・ 新しい教科書を使った授業実践、学校教育全体で取り組む道德の具体的な実践例
- ・ 授業力をつくること。何をどうすれば、どこをどうかえればを具体的に
- ・ 今までの授業との違いや授業を通しての研修、道德の教科書の教材研究
- ・ 横山先生のおっしゃる通り、参加する人は道德の授業をよりよくしたいという人ばかりだと思つたので、そう考えれば今年度のどの回もどの内容もありがたいものだった。合わせて具体的話、内容もあればいいと思う。実際子どもから学べるような研修ができればさらに理解が深まると思う。
- ・ H31.4 から全面実施される中学校の道德科についての指導の留意点
- ・ 小学校の取組から見られる有効な指導方法、評価方法
- ・ 新しい価値項目について。子どもが何を理解できればよいのか。なぜこの項目の増設なのか。
- ・ 植田先生のお話は毎回継続して頂きたい。
- ・ 道德の授業で大切なのは、教師がその価値をどのように分析しどうとらえるのか。どのような発問をすれば、子どもが生き方や判断の仕方を考えるのか。具体的な事例での研修を期待します。発問の作り方が分かるようになるにはどうするか。
- ・ 評価に注目がされていますが、授業をぬいて評価を考えがちな傾向が危惧されている。授業を実際に模擬してみることや、資料分析などの研修が行われているとよいと期待している。
- ・ 国の最新の情報が聞きたい。
- ・ 道德における主体的、対話的、深い学びについてくわしく聞きたい。
- ・ 特別な支援が必要な児童生徒への学びをどう工夫すればいいか。

#### 5．自由意見等

- ・ とても有意義な研修だった。案内に気がついたのが遅かったので、後半の2回だったので、もっとはやくに受講したかった。
- ・ 今年度も中身の濃い道德ラボだった。横山利弘先生の勉強会に行きたくなった。
- ・ 実際子どもから学べるような研修のアイデアが県教委とセンターと大学と現場がコラボしてできる。この会なら実現できそう。
- ・ 他県からの参加ですが、とても勉強になった。近隣の県にこのように学べる場があり、よかった。ぜひ四国道德ラボが実現されればと思う。来年度もよろしくお願いします。
- ・ いつも関西や関東までいくので近くで（四国内）でしていただくと、とてもうれしい。
- ・ 香川県でこのような研修会が継続的に進められているのがすごいと思った。県のみが取組が四国内、瀬戸内地域に広げられるとさらなる学びができると期待している。
- ・ 香川大に入学し、今、岡山で中学校教員をしておりますが、やはり香川の先生たちの共通認識と熱意はすばらしいと思う。岡山は道德に対しての情報、学ぶ場は少ないので、参加させていただき、ありがたい。
- ・ 大変楽しく、勉強になる時間だった。毎回毎回テーマが焦点化され、まさに“ラボ”の名にふさわしい研修だった。
- ・ 自分たちの現状に寄り添ったお話がたくさん、講演や対談から聞くことができたと思う。実践を授業をしなければ、実際には本当に評価もできないなと思った。自身はまだ教員になったばかりですが、自分にとっての「納得解」の欠点を少し見つけられたような気がする。

# かがわ道徳ラボ研修会

2017.12.9（土）



【道徳ラボの取組を紹介】



【対 談】



【講演： 澤田浩一教科調査官】



【講評：チーフ研修ファ facilitator  
堀田 竜次 様】



【対談：七條正典先生】



【対談：横山利弘先生】

### ３．かがわ道徳ラボ指導者研修会

平成 30 年 1 月 12 日（金）かがわ道徳ラボ指導者研修会（高松市総合教育センター）

県内の指導主事を対象とした教科化に向けた学校の悩みや不安を学校訪問等で出された質問等について協議する予定である。限られた時間だが、基本的事項の講義を行い、その後グループ協議を経て、グループで出された主な質問に教職大学院の担当教員が可能な範囲で答えていった。質疑応答では、「評価」、「検定教科書と教材」についての話題が主に話し合われた。

| 事業内容          | 日時                                | 開催場所        | 参加人数 | 対象     |
|---------------|-----------------------------------|-------------|------|--------|
| かがわ道徳ラボ指導者研修会 | 平成 30 年 1 月 12 日（金）<br>9:30～10:55 | 高松市総合教育センター | 95 名 | 県内指導主事 |

進行については下記のように進めた。

#### かがわ道徳ラボ 指導者研修会      テーマ「道徳の教科化に向けて」

香川県教育委員会事務局義務教育課と香川大学教職大学院の連携・協働により、かがわ道徳ラボ指導者研修会を下記の通り実施する。

日時 平成 30 年 1 月 12 日 9:35～10:35

場所 高松市総合教育センター

対象 香川県内の県、市町教委等の指導主事

講師 香川大学教職大学院 教授 七條正典、准教授 齋藤嘉則、教授 植田和也

○ 講話及び協議について 9:35～10:35

講話「道徳の教科化全面実施直前に」... 30分 (9:35～10:05)

ミニ講話 香川大学教職大学院 七條 正典 全面実施直前のポイントを確認

ミニ講話 香川大学教職大学院 植田 和也 道徳科の評価、中教審答申

ミニ講話 香川大学教職大学院 齋藤 嘉則 管理職への指導助言を、量的確保と教科書グループ協議... 15分〔義務教育課で司会〕 (10:05～10:20)

「道徳の教科化に向けた課題について」

ミニ講話を受け、課題に思ったこと等、学校訪問等での悩みや質問をグループでまとめる。

意見交換... 15分〔3先生に質問〕 (10:20～10:35)

回答者 七條正典、齋藤嘉則、植田和也

・グループ協議で出た質問を各グループから 1 つ出し(重複は避けて)香川大学の先生に答えてもらう。司会者が質問する。

#### 4. それ以外の取組

道徳研修教材「かがわ道徳ラボ Q&A」の作成（H30 年 3 月予定）

趣旨：道徳科完全実施に向けて、今年度の「道徳何でも Q&A」で出された質問内容等を中心に、道徳科 Q&A ブックを作成する。本ブックは、校内研修や個人研修等でも活用できるように読みやすく分かりやすい内容としたい。現段階の予定は、教科化の趣旨とポイント、授業づくり、評価、年間指導計画等についての理解を深められる教材とする。

利用対象：小・中学校教員、道徳教育推進教師、若年教員、指導主事

内容（概要）：「かがわ道徳ラボ Q&A ブック」のプロット案は下記のとおり

##### 「道徳何でも Q&A」の内容（目次）

- 1 なぜ、道徳が教科になるのですか？何が変わるのですか？
- 2 学校として、35 時間の量的確保を教員が意識するための具体的な手立てはありませんか？
- 3 道徳科の実施にあたり、管理職はどのようなことに留意すればよいのですか？
- 4 道徳教育推進教師が、特に留意しなければならないことは何ですか？
- 5 道徳科の指導方法では、特に何に留意すればよいのですか？
- 6 道徳科での問題解決的な学習で気をつけたいことは何ですか？
- 7 複数の価値が対立したり、結末が描かれていないオープンエンドの教材を扱ったりする際の指導では、どのような配慮や支援が大切ですか？
- 8 道徳の教科化について、保護者への説明や情報発信はどうすればよいのですか？
- 9 年間指導計画や別葉の作成において、どのように作業を進めればよいのですか？
- 10 発達障害等の配慮を必要とする子どもたちにどのような支援を大切にすればよいのですか？
- 11 道徳教育を柱として、幼小連携を推進したいのですが、何から取り組めば良いのですか？
- 12 道徳科の評価を行う際のポイントや評価の記載はどのように進めていけばよいのですか？
- 13 道徳科の研修が必要であると思いますが、教員の研修の必要性や大切さを共通理解する際に知っておけばよいことは何ですか？
- 14 道徳科に関する効果的な校内研修の工夫として何かヒントはありませんか？
- 15 完全実施直前に校内研修等で、共通理解を図るためにも確認しておくべき資料や文章等は何ですか？
- 16 道徳科になり、教科書が使用されますが、今までの郷土資料や学校で開発した教材等は使えますか？
- 17 県教育委員会が作成してきた郷土資料や道徳関係の資料等には、どのようなものがありますか？
- 18 道徳科に関することでの質問や相談を大学や教育センターにすることは可能ですか？
- 19 道徳科の授業や校内研修等でタブレットの活用でどのようなことができますか？
- 20 教科化を機に、教員自身の倫理観やモラルの向上を高める何かヒントはありませんか？

相談や質問への対応と支援～道徳教育何でも相談ネット～

県内外から、今年度4月以降に道徳教育の教科化や学校での道徳の授業づくり等に関する相談や質問等が約50件程あった。方法として、電話、大学への直接訪問、電子メールでのやりとり、公開

講座の個別質問時間の活用、道徳に関する研修会の休憩や終了後、等多様である。内容としては、教科化直前ということでもあり評価に関わること、今後の教科書や教材について、全体計画・年間指導計画の修正等の手順やポイント、校内研修の工夫について等が主なものである。

道徳ラボに参加できた方は、研修会で得た資料を活用して校内研修の場を設定するなど、何をすべきかの方向性や不安軽減に役立てたといった声も聞かれたが、なかには道徳教育推進教師であるが、都合が付かず参加できなかったために問合せや資料がほしいと連絡をいただいた。そのような方には、昨年度の「DVD研修教材」の紹介や今年度作成の「かがわ道徳ラボQ&A」を生かしてほしいと説明した。「かがわ道徳ラボQ&A」を今年度中に配布できるように予定している。

＊ 上記以外にも、本事業の推進に関わり下記のような点についても実施できた。

- 香川県教育委員会の道徳教育地域支援委託事業における研究推進校において、道徳を実践研究している教職大学院生が大学教員とともに授業参観を実施できた。
- 香川県小学校教育研究会道徳部会夏季研修会や支部研修会にも教職大学院生が参加し、実践的な学びの場とすることができた。
- 12月に実施した道徳ラボ研修会に本学教職大学院生の多くが参加でき、教職大学院の授業科目「道徳授業実践研究」で、「かがわ道徳ラボ」から考えるとして、議論された内容を演習的に取り上げて質疑応答やディスカッションを深めることができた。
- 本事業に参加した本学教職大学院生が12月に日本教職大学院協会ポスターセッションでの発表による取組紹介等で説明や広報を実施できた。
- 2月に実施した香川県教育センターの研究発表会において、道徳教育に関するブースを設置して、昨年度の道徳ラボDVD教材を視聴できるコーナーや道徳ラボの取組を広報する場を設けて広く啓発に生かした。

### 連携による研修についての考察

#### (1) 研修支援プログラムの開発（企画、実施、評価）に当たっての工夫・留意点

昨年度の成果や実践を生かして、今年度は特に以下の点を意識して取り組んできた。

「知りたい、聞きたい研修」をめざして、完全実施目前の学校現場の道徳科に対するニーズに応えられる内容を7月の公開講座から12月の研修会まで継続的に捉えて計画した。

特に、前述の5点、道徳科実施の趣旨や経緯への理解不足、道徳科におけるめざす授業像に対する曖昧さ、道徳科の評価に対する不安や疑問、教科書になり、年間指導計画や別業等作成に対する不安や疑問、学校全体で推進する授業の指導体制や推進体制づくりに対する悩みを研修内容に具体的に理解できるように位置付けてきた。

毎回の公開講座や研修会において「道徳何でもQ&A」としての時間を設けて、参加者から自由に質問を出していただき、質疑応答ができる場を設けてきた。さらに、電話やメール、FAX

等での質問にも可能な限り応えていくことを研修会でも広報し、その後、メール等で多数質問が来ている。

今年度の「道徳何でも Q&A」で出された質問内容等を中心に、「かがわ道徳ラボ Q&A」を作成して、学校現場に配布する。個人研修や校内研修等で活用して完全実施に役立ててもらいたい。

昨年度の参加者に道徳教育推進教師や研究主任等が多かったことから、校内研修等での活用も考慮して内容を計画した。

校内研修や授業づくりに関する公開講座や研修会において、タブレットの多様な活用を紹介するだけでなく、実際に触れてみて、「使ってみたい、これならできそうだ」といった感覚をもてるような演習を取り入れた。

そのほか、開催時期については「かがわ道徳ラボ公開講座」は、基本的に教職大学院の授業日が平日であるため、学校現場が夏休みの平日をあてた。それ以外の、「かがわ道徳ラボ研修会～」は、全て土曜日に実施した。また、開催場所については、基本的に大学で実施することとし、12月開催予定の「かがわ道徳ラボ研修会」と1月開催の「かがわ道徳ラボ指導者研修会」は、高松市総合教育センターで実施した。

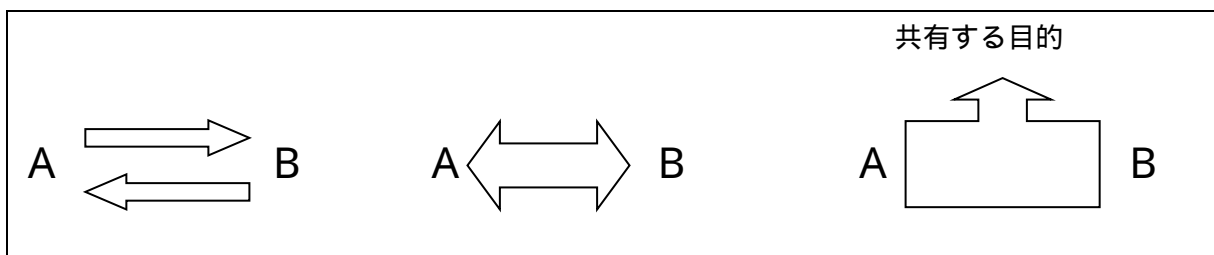
## (2) 他の教育委員会等に参考にしてもらいたいこと

目的を共有し互いの道徳教育に関する内容の理解と情報交換

昨年度に引き続き2年目であったので連携や情報交換においても、継続している良さが生かされていた。何よりも教職大学院と県教育委員会や県教育センターが協働して、道徳の教科化全面実施に対する不安や悩みを捉えて、それに応える研修プログラムを実践しようとするのである。その際に互いの担当の人と人が目的を共有することである。道徳科の全面実施に向けて、県全体の道徳教育推進のために教職大学院に何ができるのか、県教育委員会や県教育センターと連携しながら大学の知見や人材がどのように生かされるのか、ともに情報交換をしながら知恵を出し合ってきたことが貴重な財産でもある。

さらに、打ち合わせや研修会実施の過程において、大学の道徳担当教員が県で実施している道徳教育の研修内容を理解すること、県教育委員会や県教育センターの道徳担当指導主事が大学の道徳の授業科目の内容を理解すること等、互いの養成研修の実施内容の理解が深まることが基盤として重要であった。

さらに、様々な形の連携があるが、今年度は昨年度の連携をもとに大学と県教委・県教育センターの両者にとって、道徳の教科化に関する目的の共有と連携することでの大きな意味があり、様々な研修の持ち方や内容の設定にも工夫してきた。



特に、今年度は「知りたい・聞きたいに応える道徳研修」として、7月の公開講座から、10月末のかがわ道徳ラボ研修会まで、5回全てにおいて「道徳何でも Q&A」を設定して参加者の悩みや質問等を受けて、みんなで考える場づくりを意識して実施してきた。また、特別支援教育の視点や ICT の活用に関する情報提供等も演習を取り入れながら試みた。

「聞きたいこと、知りたいこと」を聞けるネットワークづくり、パイプづくり

完全実施目前で各校の道徳教育推進教師や研究主任等には、それぞれの悩みや不安がある。そのような悩みや不安を把握するとともに、気軽に質問したり話し合ったりできる場づくりやネットワークづくりが必要である。そこで、研修会内で「道徳何でも Q&A」を位置づけたり、その後に電話やメール、FAX 等でも質問を受け付けたりすることを昨年度に引き続き行っている。さらに、作成教材として、「かがわ道徳ラボ Q&A ブック（H30 年 3 月発刊予定）」を作成することとした。

教職大学院、教育委員会・県教育センター、学校現場等で実施される道徳教育に関する学びの場に互いの研修対象者を参加可能にすることで、理論と実践に関する内容の相互補完を図ろうとしてきた。さらに、参加者のアンケートの声からも道徳の教科化に向けて、学校現場の道徳教育に対する意識や学びの場の必要感を強く感じた。

その他、以下のような点も上げたいが、項目のみとする。

- 昨年度に作成配布した DVD 教材の活用等についての意見を求めたこと
- 道徳関係の図書関係の整備
- 学校現場からの相談や質問への対応～道徳教育何でも相談ネット～  
（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）

その他

【キーワード】 教科化、道徳科、道徳教育、県教育センターとの協働、教職大学院、  
道徳研修教材「かがわ道徳ラボ Q&A」、かがわ道徳ラボ

【人数規模】 D （補足事項 公開講座は 40 名程度、ラボ研修会は土曜日の午後開催、8 月 5  
日は県の行事と重なり 30 名、9 月～12 月は 100～130 名程度）

【研修日数(回数)】 C （補足事項 公開講座 2 日、ラボ研修会 4 日、ラボ指導者研修会 1 日）

#### 【問い合わせ先】

「国立大学法人 香川大学」大学院教育学研究科高度教職実践専攻

〒760-8522 香川県高松市幸町 1 - 1

教職大学院 教授 植田和也 TEL：087-832-1509

教育学部事務課課長補佐 野口里美 TEL：087-832-1403

「香川県教育センター」

〒761-8031 香川県高松市郷東町 587 - 1

教職員研修課 主任指導主事 藤澤一恵 TEL：087-813-0955